

<p style="text-align: center;">岩手県工業技術研究推進会議 生産技術部会議事録</p>		<p>(実施日)</p> <p style="text-align: center;">平成16年10月29日(金)</p>
<p>(テーマ名)</p> <p style="text-align: center;">超高精度金型測定技術の構築 (中間評価)</p>		
委員	質問・意見	回答
B委員	WAゲージは誰が何処で製作したものか？ ゲージのみでも岩手ブランドとして販売可能である。温度変化に対するデータを取得し、性能表として提示することで、より付加価値がつく。	平成10年に当センターのW主専研が設計し、A社で製作を担当した。計量研と相談しながら、市販化について検討を行っていききたい。
C委員	使用したゲージのトレーサビリティはとれているのか？	計量研に依頼し、値付けを行っている。
D委員	マスターゲージとして認定は受けているのか？	受けていない。市販化する場合には検討する。  (連携研究主幹) 本ゲージに関しては学会発表が済んでいる為、特許取得ができない。市販化した場合、模倣品が出てくるのが心配。
E委員	温度保証などの技術を絡めれば、特許出願は可能ではないか？	参考にさせて頂き、ぜひ販売に繋げるよう努力したい。
H委員	開発予算額が非常に少ないが正しい数値か？ 正しいとすれば費用対効果が素晴らしい。	数値は正しい。殆ど既存の設備を使用し開発を行っている為、低予算で研究ができた。  (連携研究主幹) 本事業はコンソーシアムの委託研究として行っており、記載されている成果予測は、コンソーシアム全体のものである。